様式1 # 平成 30年度　山梨県立身延高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	「学び」の学校づくりを推進し、「文武両道」の実現を図り、活力ある学校づくりを進める。さらに、地域に根ざし、信頼される学校づくりに努める。

山梨県立身延高等学校校長　鈴木　克志

本年度の重点目標	
	1　自主的創造的な学習態度の育成
	2　一人ひとりの進路目標の実現
	3　剛健の気風と豊かな人間性の育成
	4　規律節制を守る自律的生活態度の育成
	5　「信頼される学校」としての「開かれた学校づくり」の推進

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
本年度の重点目標				年度末評価（2月20日現在）			実施日　（平成31年2月9日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自主的創造的な学習態度の育成	①　適切な宿題・課題、ICTの活用による家庭学習時間の確保と習慣化を目指す。	各教科の連携による適切な家庭学習課題を与え、継続的に取り組ませる。（家庭学習時間調査）	クラッシーを導入して2年目を迎え、家庭学習時間の増加を目指した。しかし、家庭学習時間を平均すると1時間程度であり、家庭学習時間の確保と習慣化が達成されたとはいえない。 また英検、漢検も準2級以上の取得者もそれぞれ6名・8名にとどまり、目標の20名に満たない状況であった。	C	昨年度よりクラッシーを導入し、ICTの活用により家庭学習時間の確保と習慣化を図っている。来年度は、全年次がクラッシーを利用するので、効果的な利用方法の研修を積み、実践して学習時間の増加を目指していく。	2	授業に臨む姿勢や家庭学習時間の増加への取り組みは、保護者を含めて早急に取り組む必要がある。特に、家庭学習時間が延びない理由をしっかり把握し、その原因を学校全体で共有して欲しい。 進学型総合学科高校として、魅力的な教育課程を実施していると思う。その分、各授業の内容・中身の濃さが問われるので、先生方には持てる力を存分に発揮していただきたい。
		②　英検・漢検受検を奨励し，家庭学習と連動させる。	課外等を実施し，合格者増を目指す。（英検・漢検合格者数）					
2	一人ひとりの進路目標の実現	①　適切な進路情報の提供と，進路目標に応じたきめ細かな指導を行い，進路志望実現率を向上させる。	的確な進路志望の把握と進路目標に応じたた学習環境の提供により意中の進路を実現させる。（進路実現率）	3年生の希望進路実現率は95%、講演会やガイダンス等の満足度も90%以上と高く、進路指導について成果があった。 また、職場見学やオープンキャンパスなどへも90%以上が参加し、満足度も高い。 総合学科としてのキャリア教育が成功している。	A	希望進路の実現率は格段に向上した。本校のキャリア教育の成果が表れてきていることの証明であろう。 今後も進学型総合学科校として、社会が期待する力をつけられるよう、教育課程の見直しをさらに進め、質の向上を目指す。	3	地域の学校として、生徒の多様なニーズに応える必要があり、そのなかで進路実績がを向上させることは大変だと思う。 国公立大学や有名私立大学への進学は、一朝一夕にはいかない。3年間を見据えた進路指導に力を入れて欲しい。 これだけの成果を上げていることは、先生方のきめ細かな進路指導があってのことだと思います。もっとアピールしてよい。
		②　進路目標に応じて講師を精選し，質の高い講演会を効果的な時期に実施する。	進路目標に応じた各種ガイダンスを設定し，進路意識を高めるきっかけとさせる。（生徒の満足度）					
3	剛健の気風と豊かな人間性の育成	①　部活動や委員会活動の活動状況を把握し、本校の実情にあったあり方を検討する。	指導力の向上を図り，生徒の状況を把握して指導を行う。（部活動・委員会活動満足度）	部活動の加入率が低下傾向がみられるが、90%近くが加入している。活動状況はアンケートから、満足のいくものである。 一方、生徒数の減少に伴い、単独で公式大会に出られない部がある。	B	例年通り、部活動の満足度は高いが、委員会の満足度は高くない。委員会の必要性や在り方などを考えていかねばならない。 生徒数減少に伴い、所属部員のみで公式大会に出られない部をどうすべきか、検討を要する。	3	陸上部33年ぶり総合優勝やインターハイ・国体出場、男子ソフトボール部インターハイへの出場など、生徒が一生懸命取り組んでいる様子がうかがえる。先生方の指導のたまものであると思う。 文化部も演劇部や吹奏楽部などよく頑張っている。 生徒数の減少から部員数が少なくなる中で、健闘しており、地域から評価されています。
		②　部活動への参加を促進する。	部活動への参加状況を調査する。（部活動への参加率）					
4	規律節制を守る自律的生活態度の育成	①　頭髪・服装検査，規律週間等を通して身だしなみを整えさせる。	共通理解のもとで，組織的かつ継続的に実施する。（検査実施毎の違反者数）	定期的に服装検査を実施した。各年次とも、軽微なものも含めて各回10名程度が注意を受けていた。 寝坊による遅刻生徒は、粘り強い指導により、少数に押さえ込むことができた。	B	定期的な服装頭髪検査を継続するとともに、全校や年次集会で規範意識の向上を図る。遅刻に関しても、自律的生活態度育成の観点から、継続していく必要がある。	4	頭髪や服装、行動について、とても落ち着いていると思う。あいさつもしっかりとできており、良いと思う。 スマートフォンの普及に伴い、我々や教員にはわからないところでいじめなどが起こる可能性がある。 生徒一人ひとりを大事にする教育を今後も推進していただきたい。
		②　寝坊などによる遅刻を無くさせ、自律的生活態度を育てる。	遅刻届等で確認する。					
5	「信頼される学校」としての「開かれた学校づくり」の推進	①　魅力的なHPの作成を図り，保護者や受験生に学校の様子を発信・公開する。	HPを毎月更新するなど，広報活動を充実させ，説明責任を果たす。（HP更新状況）	HPを更新がしやすいよう改善するとともに、担当者を明確にして毎月の更新を行った。ツイッターをHPにリンクし行事ごとにタイムリー発信を行うことができた。 本年度、中高連携通信を南部中・身延中の生徒への配布だけでなく、町の回覧板を利用して情報発信を行った。	B	今年度は情報発信について計画的に実施できた。来年度も継続して実施する。 特に、来年度は中高一貫教育事業についての広報活動に力を入れる。 広報は非常に大事であり、今後最も力を入れていく。	3	地域の多様なニーズに応えられる身近な学校として、その存在意義をアピールしていく必要がある。そのために、キャリア教育の充実、手厚い学習指導、中高連携の推進が不可欠である。 HPは中学生が情報収集につかうアイテムとして定着している。適時に更新して欲しい。 中高一貫へ向けた取り組みは、身延高校の生命線であるから、HPだけに頼らず、きちんと伝えなければならない。
		②　情報の積極的な発信を行うため、SNSなどの活用を促進する。	機動的な情報の発信を行う。（情報発信数）					

留意点（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。